

「生き物のすごろく大会を開こう」 ビーバーの大工事

1 日 時 令和7年 11月 14日（金） 1校時

2 学年・学級 第2学年3組（29名）

3 本単元で付けたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○事柄の順序のなど情報と情報との関係について理解することができる。 【(2) ア】	○事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。【C(1) ア】 ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。【C(1) ウ】	○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。

4 付けたい資質・能力に関する児童の実態

- 「読むこと（説明的な文章）」の領域に関わる学習について、1学期に学習した説明的な文章の単元末テストにおける児童の正答率は以下の通りであった。

内容項目	正答率
文章を読み、内容の大体を理解することができる。	82%
重要な語を選び出した文章を、本文を手掛かりに並び替えることができる。	38%

前学期の説明的な文章「たんぽぽ」の学習では、前後に記述のある穴埋め問題のような本文から語を抜き出す問題に正答している児童は多かった。また、本文を読んだ後、たんぽぽの成長の順序を考えながら挿絵を並べ替えることができる児童も多かった。これらのことから、本学級の児童は文章を読み、内容の大体をつかむことはできていると考えられる。

しかし、重要な語を選び出した文章を、本文を手掛かりに並び替える問題では、正答した児童が少なかった。このことから、本学級の児童は、順序を考えながら内容の大体を捉えることは出来るが、文章の中の重要な語や文に注目して読むことに課題があると考えられる。

こうした実態を踏まえ、「自分が知るべきことについて詳しく知ること」を意識しながら、本文の中から重要だと考えられる語や文を見付ける力を付けさせたい。

5 指導観

【授業づくりの柱】

- ① 児童の実態を踏まえた「指導の工夫」をする。
- ② 児童の自己表現の力を高める「伝え合いの場」の工夫をする。
- ③ 児童に付けるべき力を明確にし、達成するための「単元づくり」の工夫をする。

- 第1次では、知っている動物の体の特徴やビーバーについて知っていることを話し合わせるなどして、様々な生き物の特徴について興味をもたせる。また、「生き物のひみつすごろく」を掲示し、遊ぶ時間を設けることによって、児童に「生き物のすごろくを作りたい。」「生き物についてもっと知りたい。」という興味をもたせ、「生き物すごろくを作り、友達と遊ぶ」という課題をもたせる。そして、児童が自分の「生き物のひみつすごろく」を作るために、「ビーバーの大工事」を学習しながら「ビーバーのひみつすごろく」を作る旨を児童に伝え、単元の見通しを全体で共有する。
- 第2次では、本文の内容を把握する。その後、ビーバーが巣を作るまでの手順が大きく三つに分かれていることに気付かせる。(木を切って運ぶ、ダムを作る、巣を作る) その際は、本文を読んでビーバーがどこで、何を、どうしているのかということを順序よく追って確認していく。文章に対応した写真などの資料が使われている教材であるため、写真も手掛かりにしながら内容の大体を把握させる。
- 第3次では、教材文を読み取らせ、「木を切って運ぶビーバー」「ダムを作るビーバー」「巣を作るビーバー」の三つのまとまりごとにすごろくを作っていく。その際、すごろくのコマの部分には、ビーバーが巣を作る手順について書き、ビーバーの体の特徴や生態についてはコマ以外の場所を書くことを伝える。巣を作る手順の文章と、体の特徴や生態について書いてある文章を正しく区別させるための手立てとして、叙述を動作化することで、動作化できるものとできないものがあることに気付かせる。
- 次に、すごろくを作る用紙を児童に提示し、書く枠が小さいことに着目させ、本文の中から特に重要な語や文だけを選び、15字程度の短い文で表現しなくてはならないことに気付かせる。文章を区別したり、重要な語や文を選んだりする際は、ICT機器を活用することで、児童が試行錯誤をしやすくする。
- 身近とはいえないビーバーの巣作りの工程を具体的に理解できるように、ビーバーの写真や木の実際の長さを提示したり、擬音語や擬態語に着目させたりする。
- 第4次では、教師が巣作りや生態に特徴のある生き物を選び、「ビーバーの大工事」のように巣の作り方が順序立てて説明された文章を数種類用意する。児童はそこから興味をもった生き物を選び、すごろくを作らせる。「ビーバーの大工事」で学習したことを生かし、文章の中で重要な語や文を選び出す。そして、巣の作り方を、短い言葉で順序を考えながらマスに書かせる。友達のすごろくに書いてある文を読んで、分かったことや考えたことを伝え合う。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【(2) ア】	○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。【C(1) ア】 ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。【C(1) ウ】	○進んで重要な語や文を選び出しながらかみ、学習の見通しをもって生き物の巣作りの手順を説明したすごろくを作ろうとしている。

7 単元の展開（全 16 時間）

次	時	学習内容	評価規準・評価方法 等
第一次	1	○学習の見通しをもつ。 ・知っている生き物の特徴や生態について話し合う。 ・「ビーバーの大工事」を読んで感想を書く。	
	2	○単元のゴールを確認・共有する。 生き物のひみつすごろくを作り,「すごろく大会」を開こう。	
第二次	3	○「ビーバーの大工事」を読み,ビーバーの写真を並び替えるなどの手掛かりをもとに,内容の大体を把握する。	
	4	○ビーバーがどこで何をどうしているかを読み取り,ビーバーが巣を作るまでの手順を三つに分ける。(木を切って運ぶ,ダムを作る,巣を作る)	
第三次	5	○木を切って運ぶ順序を読み取る。重要な語や文を考えて選び出し,すごろくにまとめる。	〔思考・判断・表現〕 ビーバーのすごろくプリント ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【C(1)ウ】
	6		
	7	○ダムを作る順序を読み取る。重要な語や文を選び出し,すごろくにまとめる。【本時】	
	8		
第四次	9	○巣を作る順序を読み取る。重要な語や文を選び出し,すごろくにまとめる。	〔知識・技能〕 生き物のひみつすごろくプリント ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 〔思考・判断・表現〕 生き物のひみつすごろくプリント ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら,内容の大体を捉えている。 【C(1)ア】 〔主体的に学習に取り組む態度〕 児童の様子,振り返り ・進んで重要な語や文を選び出しながら読み,学習の見通しをもって生き物の巣作りの手順を説明したすごろくを作ろうとしている。
	10		
	11	○4種類の生き物から,興味のあるものを選び,「生き物のひみつすごろく」を作る。	
	12		
	13		
	14		
	15	○友達が作った「生き物のひみつすごろく」を読んで,分かったことや考えたことを伝え合い,遊ぶ。	
	16	○学習を振り返る。	

8 本時の学習

(1) 目標

「ダムを作るビーバー」のまとまりの中から重要な語や文を選び、短い文で表現することができる。

(2) 評価方法

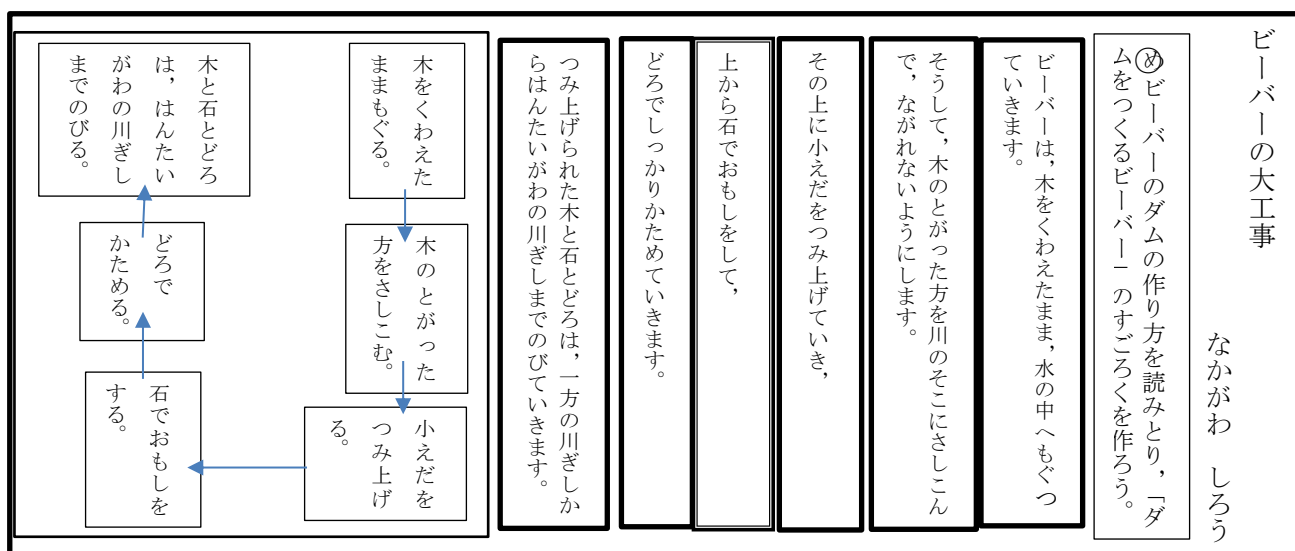
授業中の発言、ビーバーのひみつすごろく

(3) 学習の展開（7時間目／全16時間）

学習展開	学習活動	指導上の留意点・支援【評価】
つかむ	1 前時までの学習を振り返る。 T：「前は、ビーバーが何をするとまりの学習をしましたか。」 C：「ビーバーが木を切り倒すところのまとまりです。」 T：「今日は、ビーバーが何をするとまりを学習しますか。」 C：「ビーバーがダムを作るところのまとまりです。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物を確認させることで、前時までの学習を想起できるようにする。（手順とひみつに分けて読み取ったこと。重要な語や文を選び出したこと。） ・ 単元の学習計画を確認することで、本時の学習の見通しをもたせる。 ・ 「ダムが出来上がる」という本時に作る最後のコマを確認することで、すごろく作りに必要な文を選ぶ活動に繋がられるようにする。
	2 本時のめあてを確認する。	
	④ ビーバーのダムの作り方を読みとり、「ダムをつくるビーバー」のすごろくを作ろう。	
さぐる・みつける	3 ⑩～⑮段落を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重要な語や文を探しながら音読させる。 ・ 内容のまとまりを意識できるように、2段落ずつ音読させる。
	4 選んだ文を短くまとめる。 ○個人で考える。 ○3人グループで考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> (交流の手順) (例) ① 削った語を出し合う。 ② 違いを確認する。 ③ 削った理由を話し合う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重要な語や文を選ぶために重要ではないと思う語を削る際には、主語や文末を変えたり、接続詞を除いたりする等、前時までの学習を生かすことができることに気付かせる。 ・ 何について交流するかを明確に示す。 ・ 交流の際には、ICT機器を活用することで、自分の考えと友達の考えを比較しながらまとめられるようにする。
ひろがる まとめる	5 ダム作りの様子をすごろくに書く。 ・ ビーバーは木をくわえたままもぐる。 ・ 木のとがった方をさしこむ。 ・ 小えだをつみ上げる。 ・ 石でおもしろをする。 ・ だろでかためる。 ・ 木と石とだろは、はんたいがわの川ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ方の手助けとなるよう、前時に作成したすごろくを掲示する。 <p>【ビーバーがダムを作る順序を読み取り、重要な語や文を選び出してすごろくを作っている。（ビーバーのひみつすごろく）】</p>

いかす	<p>しまでのびる。</p> <p>6 振り返りをする。</p> <p>C：今日の学習で、文章の大切なところを見つけるためには「(だれ)が」や文の終わりのところをけずってもよいことが分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して新しく気付いたことや友達との交流で考えが広がったこと等を具体的に書かせる。 ・振り返りを書く際には、振り返りの視点を提示し、書きやすくさせる。 ・次時は、ダム作りに関するビーバーの生態の秘密や、出来上がったダムの大きさについてすごろくにまとめていくことを伝える。
-----	--	--

9 板書計画



	指導の工夫	することによって	目指す児童の具体的な姿
① 指導の工夫 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルのすごろくを示す。 ・ICT機器を活用し、本文を1文ごとに分けた短冊を、画面上で動かせるようにする。 ・重要だと思う語や文を選ぶ際に、「15字程度でまとめる」という視点を与える。 ・ICT機器を活用し、重要な語や文を選ぶ作業を、試行錯誤しながらできるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○どのように書けばよいのか児童が具体的にイメージして書くことができる。 ○ビーバーが巣を作る手順について書いてある文とビーバーの体の特徴について書いている文を比べ、選ぶことができる。 ○「ビーバーのひみつすごろく」を作るために、選んだ文章を短くする必要があると知る。 ○ビーバーが巣を作る順序とは関係ない語を削る。
② 伝え合いの場 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに重要な語や文を選んだ活動を見返せるようにしたり、友達と交流したりすることで、本時の活動の支援にする。 ・児童一人一人の考える時間を十分確保するために、重要な語や文を選ぶ作業を一人二文ずつ行うようにする。 ・交流する際に、ビーバーが巣を作る順序として重要な語や文かを交流の視点として示す。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自身のこれまでの学びを生かして課題を解決するために既習事項を活用したり、友達と協働したりして学習に取り組もうとしている。 ○ビーバーが巣を作る順序として重要な語や文を選び、重要ではないと思う語を削っている。 ○グループで選んだ語を全体で交流し、他のグループと違った場合は、より良い語の選び方を話し合う。友達の思いを共有したうえで、自分の選んだ語を書いている。
③ 単元づくりの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の秘密を調べてまとめ、学級ですごろく大会を開催する活動を単元のゴールとして設定し、児童の意欲を高める。 		<ul style="list-style-type: none"> ○友達が作ったすごろくで遊ぶという目的がはっきりしていることで、児童が興味をもって、意欲的に学習に取り組んでいる。